



# 下山田惠一先生

田村高校柔道部

御指導 25 周年記念誌











# 目次

1. 教員人生 45 年 “田村高校柔道部指導して 25 年”
2. 20 年の恋が実って田村へ着任 “Here comes the sun”
3. 初優勝、連覇、全国制覇めざして
4. 大会成績（全国大会団体・個人入賞等）



# 教員人生45年

## ” 田村高校柔道部指導して25年 “

田村高校柔道部総監督 下山田 恵一

- 昭和32年3月26日 いわき市遠野町上遠野字本町100番地。  
父 下山田甲文 母 光子 次男として誕生。
- 昭和41年3月 いわき市立上遠野小学校卒業。野球少年。剣道を少々。
- 昭和47年3月 いわき市立上遠野中学校卒業。剣道部3ヶ月間活動。  
その後、いわき郡内“常勝”上遠野中柔道部に移籍。  
3年時県大会中量級準優勝。 『柔道部主将初段』
- 昭和50年3月 県立遠野高等学校卒業。鉄下駄履いて登校、柔道一直線  
(TV観過ぎ)。県高校総体中量級(70kg以下)優勝。東北大会  
準優勝。福岡県飯塚市開催の全国総体出場。(リーグ戦2回  
引き分け)。国体予選会無差別級優勝。  
『柔道部主将2年時弐段』
- 昭和53年3月 日本体育大学医療専門学校『柔道整復師』卒業。  
3年時国家試験資格取得。『大学2年時参段昇段』。
- 昭和54年3月 日本体育大学体育学部武道学科卒業。全日本学生柔道団体  
優勝大会、全日本学生柔道体重別大会(重量級)山下泰裕  
JOC会長と対戦。学生・警視庁対抗試合。  
全日本柔道選手権大会東京予選会出場。  
3年時新主将として米国遠征参加。  
『4年時柔道部主将 四段昇段』

### 【経 歴】

#### 1 福島高等学校(新採用)「昭和54年4月～昭和58年3月」(4年間)

大学卒業後、新採用として福島高校に赴任。柔道部顧問として5月の連休を利用して東京遠征実施。当時小兵軍団ながら金鷲旗を制し“日本一の栄冠を掴んでいた世田谷学園”へ遠征合宿強行。激しい稽古が想像を越え、立ってられない“ボコボコ”状態。それでも大ケガなく、福高魂“なにくそ精神”で乗り越えた。その刺激のお陰で県大会では強豪校を破り決勝進出に繋がる躍進劇は流石の福高生。小生は現役選手として国民体育大会、全国教員大会入賞、東北ミニ国体、全日本柔道選手権大会東北予選会、東北東西対抗試合、東北北海道選手権大会、東北北海道対抗試合等に出場。又、県北柔道会事務局を担当(福島高内)。

『25歳 五段昇段』

## 2 東白川農商高等学校「昭和 58 年 4 月～平成元年 3 月」(6 年間)

東白農商では“古き良き時代の泥臭い鍛錬スタイル”で挑戦！ここでやれなければ小生に明日はないと心に誓い挑む。学校当局、体育文化後援会会長大相実氏（当時棚倉町議会議員）はじめ、“町おこし”！地域住民のご支援により東白農商柔道部の強化策はたちまち実を結び、幸運にも二年目からその成果が出た。石川インターハイ男子個人「60kg 級」、鳥取国体「先鋒」、全国高校柔道選手権大会「女子個人 5 階級」出場。岡山大会「一般女子団体」第五位入賞。山口インターハイ男子個人 60kg 級「第 5 位入賞」など。地域の方を巻き込み「密着型強化策」が実りました。特に“漫画 YAWARA”の影響もあり“女子柔道の東白”と評判になり TUF と KFB で取り上げられて連日放映。その効果もあってか地区外からも優秀な女子生徒が入学。小生ターボエンジン全開！柔道による「地域貢献」を旗揚げ！生徒募集兼ねた“青少年育成活動推進”（少年柔道教室等）を実施。現役選手としても国体出場と全国教員柔道大会へ出場し福島県チーム第 3 位入賞に貢献。また、平成 7 年度開催の福島国体に向けて資格取得の為、夏期講習として講道館と東京五輪選手村宿舎でのスクーリングへの参加。

『日体協公認 C 級コーチ取得』。9 年後『B 級コーチ取得』（県内第 1 号）。

## 3 好間高等学校「平成元年 4 月～平成 8 年 3 月」(7 年間)

東白農商の皆さんに対しては“後ろ髪引かれる思い”でした。県教育委員会命により「国体強化指定校の好間」へ転勤を命じられた。当初は好間の卒業生でもない小生が、天下の好間を指導して良いものかと“敷居が高い”と悩んだ。直接片寄先生にお聞きした。即答、永年勤続で転勤せざるを得ない状況になるかとの話を聞かされた。そんな中、福島国体強化を考えた時“好間でやれるのは、下山田お前しかいない”とお誘いを受けたのが実話。着任後は“常勝好間”の強化策は勿論のこと、片寄先生宅の近所に家族四人で住み、指導者としての心構えから生き方等々全てについて『片寄正男先生』に師事し、多くのことを学んだのです。県少年男子コーチを拝命。常時強化選手 7 名から 10 名（好間 6 名）引率し関東、北陸、近畿、中部、九州地区へ遠征試合・合宿を行った。小生も福島国体前年には全国教員柔道大会（37 歳）出場し決勝に進出『準優勝』に貢献。生徒と共に挑戦する姿は古き良き時代の思い出となっている。平成 7 年 10 月（会津鶴ヶ城体育館にて）、福島国体少年男子は『第 5 位入賞』（先鋒 60kg 級菅野(好間)、次鋒 73kg 級國分(日高)、中堅 81kg 級鈴木(日高)、副将 100kg 級星(好間)、大将無差別小林(好間)の精鋭五人衆。)を果たす。結果 福島県「柔道競技」は“総合優勝”に輝く！！『A 級審判員取得』。『33 歳 6 段昇段』

## 4 県教育委員会スポーツ健康課(公財)県スポーツ協会「平成 8 年 4 月～平成 11 年 3 月」(3 年間)

国体終了後は好間から福島県スポーツ健康課へ転勤。(公財)福島県スポーツ協会へ派遣。競技スポーツ主事として柔道の外、自転車、レスリング、ヨット、ラ



グビー、ホッケーの6競技を担当。ヨット：いわきサンマリーナ、ホッケー：ルネッサンス棚倉、レスリング：田島、ラグビー：あづま運動公園、自転車：泉崎バンクスタジアムへ訪問して、競技団体の強化進捗状況等把握するなど国体で勝つ為のサポート役に専念。特に「国体10連覇」成し遂げた自転車競技の取り組みは凄い！妥協を許さない“プロ意識の高さ”は勉強になりました。また、ラグビー強化の為ニュージーランドからコーチを招聘。マッシュューズコーチの担当として英会話教室に通ったこと“笑い”ウソのような本当の話。貴重な経験でした。

#### 5 田村高等学校「平成11年4月～平成24年3月」（13年間）

着任早々、故レジェンド根本芳一先生、県南柔道会審議部長鈴木俊祐先生、内藤忠前OBOG会長、三瓶信OBOG会長、吉澤秀一つばさ交通社長へのご挨拶を行う。多くの先輩諸氏のご支援によりはじまった田村柔道部物語。全校生を前に、私は“20年間の恋が実って田村に着任致しました”と第一声！生徒達は「ポカーン」とした表情でした。この時、指導人生最後の職場と決意し、これまでの教師人生の全てをかけて取り組むことを誓ったのです。幸運にも生徒の皆さんに恵まれ、初年度の12月、23回全国高校選手権県大会の決勝に進出し、“王者好間”と戦えたことが嬉しかった。翌年の6月には再度挑戦、県高校総体決勝の大舞台で“王者好間”と互角に渡り合えた自信が、その後の田村を強くしたのは間違いない。そして運命の24回全国高校選手権県大会の決勝は“常勝好間の10連覇を阻み”『初優勝』を成し遂げたのです。優勝直後に西部第二体育館にて“OBOG先輩方と円陣を組んで校歌（たたなはり・・・）の大合唱”。これも決勝で好間に勝って先輩方と肩を組んで校歌を歌うシミュレーションしていたのだからビックリしませんか。翌年の県高校総体も王者好間の7連覇を阻止『悲願の初制覇』を達成したのです。あの時は拳を突き上げ体の底から喜びを爆発させたことを覚えています。最高に気持ちよかったです。ここからは県高校選手権の連覇を一度阻まれたが、田村の勢いは止まらず、優勝街道まっしぐらと言った感じです。この25年間、初優勝してから決勝で負けたことは一度のみ。東北大会も夏冬合わせて19回優勝。すべては、選手達の頑張りと選手をご推薦下さるスポ少、中体連先生方、日頃からご指導くださる関係者の皆様はじめ、OBOG先輩方、保護者会皆様の絶大なるサポートによるものと心から感謝申し上げます。『57歳 七段昇段』。

#### 6 三春町教育委員会（主幹兼指導主事）「平成24年4月～平成27年3月」（3年間）

県教育委員会勤務規定により県内最高13年で転勤を命じられ、当時、松径会会長である鈴木義孝三春町長のご配慮により三春町教育委員会への「3年間勤務」となる。田村高校柔道部の指導業務については従来通り継続して行える勤務体制となった。

田村高校には当時若手で指導力があり田村の卒業生である吉田隆亮先生に要請。

7 再び田村高等学校「平成 27 年 4 月～平成 29 年 3 月」(2 年間)

再び田村高校に復帰。柔道部の後継者問題で頭を痛める日々。未来の田村を託せる男を、ずっと探していた。熟慮の末、『大堀直也氏』浮上。選手として大会成績良好『全日本学生柔道優勝大会入賞、全日本学生柔道体重別団体優勝大会入賞。全日本学生柔道体重別選手権大会 90kg 級入賞、全日本産業別実業団大会優勝、全日本実業団柔道団体対抗試合出場。全日本実業団柔道個人選手権大会出場。講道館杯出場』。また、日体大柔道部 4 年時主将を務め、当時日体大コーチ(阿部一二三含む)、エースサポート実業団所属、慶応高校講師の経験があることから、田村高校次期監督として抜擢することを決定。本人に要請したところ快く承諾。ここに“新生田村高校柔道部”が次のステージに向けて、明るい光が差し込んだ瞬間であります。

8 田村高等学校(常勤講師)「平成 29 年 4 月～令和元年 3 月」(2 年間)

退職後も常勤講師として二年間勤め、大堀直也先生と共に歩み田村高校柔道強化をはじめ、三春町中高連携型強化の推進と地域密着型強化として「魁春旗争奪全国高校選抜柔道錬成三春大会」の更なる発展を図る。

9 部活動指導員、外部指導者として指導「令和元年 4 月～」

部活動指導員として県教育委員会より任命。部活動指導や引率業務など大堀直也先生のサポート役に従事。令和五年度は外部指導者として部活動指導を行う。

【表 彰】

- |                 |             |            |
|-----------------|-------------|------------|
| 1 福島県高体連表彰      | :『優秀指導者賞』   | (好間高等学校勤務) |
| 2 (公財)県体育協会指定   | :『ビクトリーコーチ』 | (公財体育協会勤務) |
| 3 (公財)県スポーツ協会表彰 | :『優秀指導者賞』   | (田村高等学校勤務) |
| 4 福島県柔道連盟表彰     | :『優秀選手賞』    | (田村高等学校勤務) |
| 5 福島県柔道連盟表彰     | :『優秀指導者功労賞』 | (田村高等学校勤務) |
| 6 福島県教育委員会表彰    | :『優秀教職員表彰』  | (田村高等学校勤務) |
| 7 文部科学大臣表彰      | :『優秀教職員表彰』  | (田村高等学校勤務) |
| 8 日本体育大学同窓会表彰   | :『優秀教員功労賞』  | (田村高等学校勤務) |



## 20年間の恋が実って田村へ着任 “Here comes the sun”

平成11年4月、虎の穴から抜け出し、県内唯一体育科のある田村高校へ現場復帰。着任と同時に故レジェンド根本芳一先生、県南柔道会審議部長鈴木俊祐先生、内藤忠前OBOG会長、三瓶信OBOG会長、吉澤秀一つばさ交通社長、その他関係者への挨拶回りを行い。新学期が始まり、全校生を前に、小生“20年間の恋が実って田村に着任しました。”と第一声！生徒達は「ポカーン」とした表情でした。この時、指導者人生最後の職場と万感の思い込め決意、教師経験の全てをかけて取り組むことを誓ったのです。幸い前監督加藤力先生の置き土産「全中出場の小野中卒村上、阿部、會田と有望選手の荒、渡辺、有我」の6選手が入学。後日、主務橋本の入部で計7名となった。小生、着任早々行ったことは、道場に掲げてあった『打倒！好間』の縦畳はあっさり捨てさせたことです。王者好間を目標にしたら一生越えられないことを単純明快に説いた。将来をにらんで“目先の勝利より本物の強さ”へ踏み出す。県高校総体県大会前日、スポニチ記事（H11,6,2）より。田村柔道部は“県N01の好間打倒”から全国区の田村へと“意識改革”に取り組んだ。“旧制田村中黄金時代復活”を狙う新生田村が、第一歩を踏み出す。『“常勝好間”が新生田村に脅威を感じる日は近いかも知れない。』と堀憲司記者の目。既に情報戦略が始まっていたのです。ウソのような本当の話です。

こうして第一次強化策は“意識改革”から始まった。次に選手勧誘戦の話、“伸びる選手の発掘とスカウト合戦”です。はじめて挑む県高校総体は予選リーグを勝ち上がり準々決勝で相馬高校に敗れてベスト8止まり。東北大会へ進めず、この時ばかりは小生指導力のなさを痛感し悔しい涙を流しました。翌日からは選手強化と平行して、県内選手のスカウト合戦に臨みましたが、実際の所、高体連大会で優勝していない田村は大変不利な状況下でした。中体連のチャンピオン選手を勧誘・獲得するには、文章には書けませんが（横やり等が入り）予想以上に苦戦したことを思い出す。従って当初は苦肉の策としてチャンピオン狙いではなく、“田村で伸びる選手の発掘”に切り替えたのです。田村高校スカウトの武器の一つは“体育科専攻授業”二つ目は“日本一安い県営の“八島台寮”です。三つ目は何と言っても『スッキリ整骨院長：佐藤豪先生の帯同トレーナーとしての活動です。』日頃からケガ予防から治療までサポート最高です。この三点セットです。もう一つは卒業後の希望進路の決定でしょうか。従って、最終的には指導者（下山田）を信頼してもらえるかどうかの勝負です。絶対に欲しい選手は宝物ですから、礼を尽くし大道の勧誘法で訪問。複数年懸けても大会、練習会、道場、学校等へ顔を出し、いつでもどこでも何遍でも足を運ぶことです。全国大会にも視察と称して応援に行きます。皆さん、その節は大変お世話になりました。心から感謝しております。

嶋原功主将新チームの強化。主力が怪我を抱えながらも何とか仕上げで挑んだ 22 回県高校選手権大会はへろへろ状態で決勝へ進出。“王者好間”の先鋒 T 君に五人抜かれ痛恨の極み。屈辱を味わいながらも、我ら指導陣『歴代顧問：花里、高橋明、安齋、吉原、吉田、上田、大北、熊田、鈴木圭、塚本、阿部』『コーチ：角田、長谷川、佐藤豪、岩崎、星野、』は確実に強化の手応えを感じていた。新年度を迎え県内各地を訪問しスカウトした十二名の侍が入学、入部。狙い通りスカウト合戦“に勝利して獲得した自慢の選手達です。県チャンプはいないが“伸び率”で勝負するのです。我ら指導陣も組織の強化を図るため、角田誠コーチに加え“情熱の嵐の様な男”『長谷川圭司氏』をコーチに迎えた。圭司コーチはチームジャージをカンタベリーで統一。形から入る長谷川流。エンジ半袖ラガーシャツいいよね。アップもブラジル体操考案など創意工夫を重ね練習に取り入れての実践。コーチ陣の発想力がすばらしく毎日が充実した練習でした。正に“田村の空は、いつも青くて、丸くて、そして高い”と言って笑っていた。“孤高”楽しむ。

翌年の 46 回県高校総体決勝は“常勝好間”と激突。副将戦まで 2 対 1 で勝ち越しながら大将戦の末、逆転負けと言う残酷な結果となってしまった。あと一步が越えられない壁なのか頭を痛めていた。しかし、半年前まで 0 対 5 の弱小チームが、半年間で“互角の勝負を挑む”までに成長した姿はむしろ賞賛に値する。後日、我ら指導陣のミーティングで“伸び率”が話題となり、田村はどのチームよりも伸び率がよい。根拠は食事とトレーニングを合わせた体作りによる筋肉量アップ、ウエイトトレーニングの数値アップ。したがって明らかに体型が変わりパワーアップに繋がっていることが証明される。さらに心の部分が育ち“頭を垂れた挨拶からスリッパを揃えて脱ぐ習慣”など、スポーツ人としての身だしなみにも変化が現れ始めていたのだ。したがって、弱小チームでも“可能性を信じて”チャレンジすると日本一伸びるという結論です。こうして二年目の夏が終了となりました。

村上隆一主将率いる軍団“新生田村復活ドラマの幕開け”。23 回県高校選手権初優勝へ向けた試合は、1 回戦から準決勝まで予定通り順調な勝ち上がり、いざ決勝戦は好間の戦法は“先行逃げ切り”『先鋒日那田と次鋒佐藤で決める作戦』。対する田村の戦法は己を知り相手を知る。“後半勝負の布陣”『後半の副将に絶対的存在の阿部を配置、大将は 1 年生超級塩生で勝負』の戦略。序盤は好間が優勢となった。先鋒日那田に田村の先鋒・次鋒の人が取られてピンチ。それでも中堅田村 1 年秋山が日那田を優勢で下す（この勝利大きい）。秋山は好間次鋒の佐藤に横四方固めで抑え込まれたが時間ギリギリまで粘っての敗戦。いよいよ田村は副将阿部が登場。次鋒佐藤を得意の寝技に持ち込み“縦四方固めで抑えて”一本勝ち。続く中堅は巨漢の田村に対しては“怒濤の攻撃柔道”の末優勢勝ちを収める。3 人目は副将同志、好間小西と対戦しお互いに“決めてなく引き分け”互角状態に戻したのでした。大将戦は田村 塩生 対 好間 伊藤との大一番！満を持して登場の塩生が試合開始後 18 秒で“鮮やかな払い腰”が決まり一本勝ち！“常勝”好間の 10 連覇を阻止。田村塩生

一本！それまで、審判の右腕がまっすぐ上にスツとのびた。田村高校“歓喜の初制覇”を成し遂げた。“歴史が動いた瞬間”でもありました。

さあ、もう一つの“最高のドラマ”の始まりです。翌年 47 回県高校総体の決勝戦も予想通り“王者”好間との一騎打ち。はじめ一本を取って先攻、次に技有りを取られて①対 1 で迎えた大将戦、またも 2 年生塩生選手が“王者”好間の大將、昨年の県高校選手権“無差別級チャンピオン”である日那田選手を終盤、しっかり二つ持って“内股で放り投げて技有”を奪うと、そのまま“袈裟固めで抑え込み”合わせ技で一本勝ちを収めた。この瞬間、“王者”好間の 7 連覇を阻止。村上隆一主将は“人知れず流した涙があった”。それでも前を向き良くチームをまとめあげ、新生田村を「田村中学以来」の『初制覇』へと導いたのです。“大将”塩生は仲間と共に歓喜の男泣き、心の奥に秘めていた“感情を一気に爆発”させた。年度末に初の全国大会出場をゲットしていたが、選手たちにおごりはなく、常に『チャレンジ精神』を絶やすことなく、高体連に標準を合わせて精進。決勝でも苦しい戦いを強いられましたが、“逆境に強い田村軍団”へと成長の姿が決勝の大舞台で見ることができた。熊本 IH 団体試合は予選 1 勝（東海大甲府）1 敗（草津）で決勝トーナメント進出ならず。小生にとって、尚武の国、熊本県山鹿市の初出場は一生涯忘れない指導者の原点となった。

添田臣一主将率いる新チーム田村、最強の布陣で挑む。前評判通り。初陣は順調な滑り出しで県新人大会を危なげなく『初優勝』を成し遂げてホッとする添田主将。毎日勝つこと連覇することだけを考え、寝ても覚めても日々奮闘。万全で臨んだはずが、24 回全国高校選手権県大会決勝は代表戦の末、“逆襲をくらい”まさかの敗戦を期した。監督として“連覇の難しさ”を痛感した。連覇はそう簡単では無く“甘くなかった”。この苦い教訓を生かして、48 回県高校総体決勝は屈辱を晴らして『2 連覇達成』致しました。

茨城 IH に駒を進め、福岡の強豪東海大五を相手に 4 対 1 で破り完勝したのです。お見事な勝ち方でした。当時石田昭二県柔連会長を驚かせた一コマです。『歴史上福島県が福岡に勝った記録はない』とおっしゃり、よく頑張ったと最高の賛辞を頂きました。名実ともに福島に田村あり“柔道田村の復活劇”となったのです。第一次強化策は初年度の『意識改革』から『初優勝達成』する所までの話でした。

第二次強化策は連覇。5 連覇。東北大会制覇・連覇。全国無差別級入賞。埼玉国体五位。

第三次強化策は 10 連覇。東北大会 3 連覇。世田谷学園を破る話。大分国体 4 位入賞等。

第四次強化策は 15 連覇。東北大会連覇。全日本ジュニア入賞。山口国体 4 位入賞等。

第五次強化策は 20 連覇。沖縄 IH 団体入賞。秋田 IH 三位入賞。女川町長旗大会秘話等。

第六次強化策は福島 IH 大活躍。魁春旗争奪全国高校選抜錬成三春大会初優勝。

全日本柔道選手権大会出場。まだまだ話は尽きませんが、ここからは、本日の祝宴の中で皆さんお一人お一人と話ができればと思っております。宜しく願います。

大事なことは、新たな指導者との出会いです。現在、大堀直也監督率いる新生田村軍団は全国制覇に向けて挑戦中です。未来を切り開く若者に何卒ご支援の程よろしくお祈いします。また、OBOG先輩方の各方面における活躍を願うと共に福島県警、刑務矯正官、全日本実業団大会等での活躍。各大学進学後の“日本一”に続く活躍と“世界へ羽ばたく”選手の出現。最終的には全日本柔道選手権大会出場と覇者。世界選手権大会チャンピオン、五輪金メダリスト！！の誕生を心から願っています。

皆さん、本日は本音で理想と夢を語り、実現する為の活力・エネルギーを頂く会にしたいものです。結びに、大変ご多忙の中、万障お繰り合わせの上ご出席くださり誠にありがとうございます。これまで支えて頂いた皆様に対し、心から感謝申し上げます。



# “初優勝、連覇、全国制覇めざして” — 25年間の記録と実話を伝える —

2000年（平成12年卒）

宍戸寛主将他5名（吉村、飯塚、見田村、黒須、佐久間）。5月の県高校総体県南大会が開催。初日の団体戦は2回戦で安積に5対0で順調スタート。準決勝は学石を主力が奮闘3対0で勝利、決勝戦は日大東北と1対1の代表戦となり、飯塚選手が激闘の末競り勝って『5年連続優勝』成し遂げた。個人戦は3年生66kg級試合巧者吉村選手が3位。81kg級宍戸主将は十字靭帯手術からの復帰戦、無理して挑み3位入賞。100kg級飯塚選手は決勝で敗れたが堂々の2位。女子は52kg級佐久間が3位。57kg級黒須は3位という結果でした。6月県高校総体団体戦は初戦で福島東に5対0の完勝。3回戦は磐城に4対0で快勝、準々決勝はシードの一角相馬に対して1対2で競り負けてしまい『ベスト8』止まりという結果でした。個人戦の81kg級の宍戸主将膝をガチガチに固めてのベスト8入りは立派です。女子57kg級黒須はベスト8。52kg級佐久間が決勝に進出し2位入賞、東北大会出場を決めた。県総体県南大会は小野町体育館で開催。地区大会でしたが保護会の配慮で「宍戸旅館」に宿泊、保護者会との懇親を深めながらの大会参加となりました。良き思い出です。

着任早々、“意識改革”のため！道場に掲げていた『打倒！好間』の目標は申し訳なかったが取り外した。将来をにらんで目先の勝利より本物の強さ！へ踏み出す。県大会前日H11,6,2スポニチ記事より“県NO.1の好間打倒”から全国区の田村へと“意識改革”に取り組んだ。黄金期復活を狙う新生田村が最前線基地で、第一歩を踏み出す。“常勝好間が田村に脅威を感じる日は近いかも知れない”と堀憲司記者既に情報戦略が始まっていたのです。

ウソの様な本当の話です。



2001年（平成13年卒）

嶋原功主将他4名（佐川、柳沼、関根、佐藤）。当初の強化策は先ずは“身体を作り”と“意識改革”です。沢山食べて勝つ為の身体作り。下山田流ちゃんこ鍋よく作りました。味の程はどうでしたか。業務用“大鍋”は嶋原さんからの提供。ありがとうございます。遠征強化は新潟杯、全国高校体育学科・コース大会、八王子杯を経験しながら関東遠征など多く実施。かなりハードでしたが、どこへ行っても泥臭くやり遂げる。相手が強豪校であっても相手を認めない“メンタル面の強さ”を一番鍛えたかった。嶋原、佐川、関根、柳沼、佐藤を中心にこれなら戦えるかなと思えたのだから不思議。22回県高校選手権大会は決勝へ進出したものの“常勝好間”軍団にケチョンケチョンにやられました。選手、コーチミーティングを行いな

がら半年かけて修正改善を加えた。基礎基本重視した稽古を積み上げて再度挑戦！46 回県高校総体の決勝戦は田村が副将まで1 点リードしている状況を作ったが、大将戦において2 対②の内容差で“逆転負け”という結果でした。

正直ショックは大きかったが、その後の指導陣の反省会においては、選手達は心体の部分で着実に力を付けていることが分かった。したがって全国区の田村へ近づく為にはもう一つ技術の部分で“二つ持って技を繋いで投げきる技術を体得することでした。翌日の個人戦では90kg 級において3 年嶋原功選手と2 年阿部利一選手との同門同士の決勝となり、軍配は先輩嶋原功選手に上がり、岐阜 IH（関ヶ原の戦い）への出場を決めた。



2002 年（平成 14 年卒）

村上隆一主将他 6 名（阿部、荒、渡邊、有我、會田、橋本）歴史を変える精鋭達の出陣！遂に 23 回県高校選手権決勝戦は“王国”好間の牙城を崩し『念願の初優勝』。村上主将がモットーとする“全員柔道”が選手に浸透し、『全国で勝つ』を合言葉に厳しくも自ら考えて自ら追い込む練習で積み上げて、わずか二年で開花させた。“常勝好間”の10 連覇を阻んでの『田村一本、歓喜の初 V』。勝敗を分けた布陣。好間は“ポイントゲッター”の主将日那田と佐藤を先鋒・次鋒に配置“先行逃げ切り”を狙ったのに対し、田村は県新人90kg 級準優勝“大黒柱”阿部選手と100kg 超級優勝一年生塩生選手の“二枚看板”を副将・大将に配置したことが勝因となった。序盤は好間が優勢に進め、先鋒日那田が田村先鋒次鋒に連勝。田村の中堅秋山が日那田に優勢勝ち。次鋒佐藤に横四方固めで破れた。さあ、田村は大黒柱副将阿部の登場。開始早々、得意の寝技に誘い込み佐藤を縦四方固めで一本勝ちすると続く中堅の巨漢田中に対し果敢な攻めにより優勢勝ち奪う。さらに好間の副将小西を攻め立てるも引き分けとなった。大将戦は田村塩生と好間伊藤との大一番。満を持して登場した大将塩生は“鮮やかに払い腰”が決まって一本勝ち『初制覇』を成し遂げ。新たな歴史の扉を開けたのです。

翌年の 47 回県高校総体決勝戦は“常勝”好間 7 連覇を阻み雪辱。田村が『初制覇！』に輝く。1 対 0 から追いつかれ同点で迎えた大将戦。相手は昨年末の県高校選手権の個人無差別級で優勝した日那田選手。超級塩生は鍛え上げた“肉体と稽古量の豊富さ”を生かし、内股で有効を奪いそのまま上四方固で抑込み一本勝ち。チームの仲間と共に男泣きして喜びを爆発させた。素晴らしい戦の後の情景は新鮮であり、今もなお“時々夢に出てくる”忘れられない最高のワンシーンである。個人戦は81kg 級で荒浩太 3 年、100kg 超級塩生学 2 年が共に優勝する。





2003年（平成15年卒）

添田臣一主将他11名（塩生、遠藤、秋山、穴澤、石井、石川、佐藤孝、佐藤豪、鈴木、三上、室井）。この学年は小生が“スカウト合戦”に勝利した自慢の学年です。指導者人生の全てを掛けて発掘した将来性のある選手達です。その甲斐あって、初戦の県高校新人大会は準々決勝で“常勝好間と激突”①対1の内容差で辛くも競り勝って準決勝へ駒を進めた。準決勝は小高工と対戦、柔道がかみ合わず苦しみながらも3対1で下した。決勝は日大東北と対戦。真っ向勝負、攻撃柔道で挑み5対0で失点なく完全勝利を果たす。堂々たる添田軍団の『初優勝』お見事の一言。24回県高校選手権大会決勝は代表戦延長の末、まさかの“逆襲を食らい”王者好間の底力に敗退した。この勝負は監督の采配ミス、あまりに勝ちを急ぎ過ぎてしまった。監督として連覇の難しさを痛感させられた日でもありました。この教訓を生かし翌年の48回県高校総体決勝は、二度と同じ轍は踏むまいと挑み、準決勝は福島工と対戦、慎重な試合運びで3対0の勝利。決勝戦は近年頭角を現してきている小高工との一戦、2対0で『2連覇』達成。1回戦から失点のない慎重かつ冷静な戦い方で連覇達成であった。

茨城IHは福岡の強豪東海大五と対戦、4対1で歴史的な大勝利を収めた。当時、県柔連石田昭二会長曰く「福島がこれまで福岡に勝ったことはない」と選手を褒め讃えてくれました。これが福島の初勝利かと驚きましたが、なぜか認めたくない気持ち在上回り悔しかったです。個人戦は90kg級の三上善栄。100kg超級は塩生学が出場しました。



2004年（平成16年卒）

佐々木寿和主将他5名（須田、関根、田母神、坂詰、蛭田）の戦力。保護者会の皆さんが積極的でBBQやソフトボールで遊んでくれる愉快的な大人達に感謝です。42回県高校新人大会決勝は聖光学院を3対1で退け『2連覇』達成。25回県高校選手権は多少不安が有りました。なぜなら「この学年は県南地区1年生大会の決勝で日大東北に負けている学年だからです。」準決勝で好間と激突、心配をよそに佐々木、関根、須田、田母神、坂詰、蛭田選手達の頑張りにより2人残しで勝利。決勝は聖光学院と対戦、先鋒佐々木がアツと言う間に3人を投げ飛ばして優勢、次鋒須田が副将中山、大将の国分を大外刈りで仕留めて4人残しで完勝『2年ぶり優勝奪還』。あっぱれ！東北大会は準決勝で秋田経法大附に大将戦の末一人残しで敗れましたが『3位入賞』は立派。49回県高校総体決勝は好間を3対1で下し『3連覇』。

長崎 IH は諫早で開催され、開会式において『3年連続出場表彰を受賞』。過去の福島県の受賞校は「好間」のみ今回、田村が加わり全国常連校に名を連ねることになったのです。団体戦は世田谷学園と対戦1対3で敗れましたが須田選手の寝技での奮迅ぶりが光った。個人戦は90kg級 須田直人。100kg級 笠井真幸。100kg 超級 緑川和輝の三人が出場し今後に繋がる戦いぶりであった。



2005年（平成17年卒）

笠井真幸主将他12名（緑川、鈴木、佐藤博、渡邊圭、梶、神田、後藤、千葉、星山、渡部晃、渡邊康、佐藤俊）。大型の選手から小柄な選手まで中体連で実績のある個性豊かな軍団でした。皆さん体重増に苦しみながらも、八王子杯、関東遠征、また全柔連主催のブロック合宿等で強化スタッフや強化選手との接点を利用して鍛えた学年です。例えば1年生笠井選手188cm、長い釣り手をどの様にたたんで使うのか疑問に思い、天理 篠原選手のマンツーマン指導を受けて課題克服。その効果は26回県高校選手権の決勝で発揮された。“強豪好間”と対戦、好間 先鋒 安部に二人抜かれ大ピンチ状態でした。まさかの思いが脳裏をよぎりましたが、田村 中堅の要 笠井主将が登場、田村が取り組んで来た、“しっかり組んで投げきる”というスタイルを本番でも貫き通し、たちまち劣勢をはね返し、怒濤の5人抜きを演じてくれました。結果は“団体連覇”に貢献『2連覇3度目』優勝を達成。個人も無差別級 笠井主将が決勝に進み、動いて巴投など掛ける塙（高専）を相手に足を使って動きを止め、しっかり組み止めて“内股で放り投げ”一本。5戦オール一本勝ちで『二冠達成』おめでとう。この試合を見た中学生が感激して“田村に進学を決めた！”というエピソードがある。

全国高校選手権大会個人戦では準々決勝へ勝ち進み『笠井真幸選手：無差別級第5位入賞』全国八人の中の一人です。

50回県高校総体決勝は強豪好間と対戦、3対1で下して『4連覇』達成する。

54回東北高校柔道大会は1次リーグ初戦でド緊張から身体が動かず、岩手の不来方に苦戦し引き分ける。笠井主将は「このままではズルズルいってしまう」と仲間を鼓舞し気持ちを切り替えさせた。第2戦は東北に勝利し、1勝1引き分けで何とか予選を突破することができた。波に乗った田村は本来の力を思う存分に発揮し2次リーグでは今大会最も力があると評された「盛岡中央」と山形の雄「羽黒」を下して決勝へ進出。決勝は強豪 秋田経法大附と対戦。先鋒の鈴木正幸（3）が優勢勝ちすると、次鋒 荒川直樹（2）が身体の柔らかさを使い“横四方固め”一本勝ち。中堅 緑川和輝（3）は前技を見せながら“小外掛け”一本勝ち。副将 内藤雄大（1）が得意の大内刈りを使いながら“鮮やかな体落とし”一本勝ち。大将 笠井（3）主将はしっかり組んで技をつないで最後は“払い腰”で一本勝ち。四選手、最高に気持ちのいい

一本勝ちを収めた。漫画の様な圧倒的強さで栄冠を掴む。“福島県勢”として『初優勝達成』でした。ウソのような本当の話です。この時、嬉しい出来事があった。会場で片寄正男先生が近寄って来られて、「ワガやったな、優勝おめでとう。わたしはできなかつたよ。」と話された。大変嬉しく“一生の宝物”となったのです。

7月強化策の金鷲旗は4回戦で国東（大分）を下し、5回戦は地元名門 福大大濠に敗れる。広島 IH 団体戦は予選リーグ初戦、東海大四と対戦、笠井と緑川が勝利するも他の選手が止めきれず2対3、2回戦の小杉戦も笠井、緑川のツインタワーが勝利するもディフェンス力不足、2対3で敗れる。個人戦は『100kg 超級：緑川和輝選手第5位入賞』もう一つ上に行けたな。100kg 級は笠井真幸が出場するも団体戦の負けを引きずった感あり。主将としてのプレッシャーが半端ない。

埼玉国体は田村の中心選手『中堅内藤1年、副将笠井3年、大将緑川3年』の三人が出場。大事な場面での活躍が光り、福島県チームとして『第5位入賞』達成。“獅子奮迅”がんばりました。おめでとう！



インターハイ東北大会 初優勝（平成16年）

2006年（平成18年卒）

草野智洋主将他5名（鈴木、渡辺、藤井、荒川、添田）。辛抱強く心優しき学年。小生、人生初の出来事、両足のアキレス腱を同時切断しました。まったくドジでアホやね！車椅子で大会会場の監督席へ移動“笑い”。そんな状況でしたが選手達はまったく動揺無く自信に満ちていた。27回県高校選手権の決勝はそれを証明するかのごとく“5人残しの完勝”で『3連覇4度目』を達成したのでした。

全国高校柔道選手権大会の個人戦（無差別級のみ）は、鈴木貴之出場。東京武道館の大舞台“冷静な試合運びを心掛け”準決勝まで進出。『無差別級第3位入賞：鈴木貴之選手（183cm97kg）。』お見事でした。あっぱれ！！

55回東北大会は群雄割拠の戦国時代。田村は一冬で変身！草野主将、鈴木、荒川、渡辺、添田の3年生軸に“たたみかける強さ”で『2連覇V』達成する。

この年は『“舞鶴館柔道場”落成記念式典』開催の為、東海大学柔道部監督中西英敏先生とシドニー五輪100kg“金メダリスト井上康生選手”招聘。中西英敏先生と井上康生選手のダブル講演会並びに井上康生選手による“柔道十人掛け”を実演。世界の金メダル選手の技に触れる。生徒、保護者、OBOG先輩方総勢200名が集う。その後の懇親会も大盛況でした。道場の『直心』『初心』墨書額は両先生の直筆です。

51回県高校総体もまったく問題なく圧倒的な強さで『5連覇達成』。千葉 IH 個人

戦は 73kg 級郡司成晃 1 年。90kg 級内藤雄大 2 年。100kg 級渡辺裕也 2 年。100kg 超級渡辺俊樹 3 年。女子 70kg 級久野澄子 1 年の 5 人が出場。基本に忠実な柔道で、もくもくと稽古する“伸び率”で言うと上位ランクの学年だと思っています。

悲しいことは、お二人の訃報です。故人藤井伸伍君（高校 2 年生）。伸伍の病室からのメッセージです。3 年生卒業文集「己に克つ」へ贈る最後の文章です。『礼儀あり 節度もありしてしかる後 誠に身につく優れた体技。』と書かれていました。

故人荒川直樹君（東北福祉大 2 年生）の訃報です。心から御冥福をお祈り申し上げます。



2007 年（平成 19 年卒）

岩崎竜也主将他 11 名（村上、佐藤龍、増子、裕也、樽井、佐藤武、鈴木、内藤、羽田、星野、新田）。北海道全中で活躍した須賀川一中の岩崎、内藤、渡辺の三選手。将来教師をめざす須賀川三中村上が入学。いよいよ全国頂点を見据えた強化策として“松前杯”への参加。H18 年度から導入のゴールデンスコア形式で試合が行われた。参加した 66kg 級岩崎、90kg 級内藤、100kg 級裕也が『3 位入賞』を果たす。28 回県高校選手権決勝は粛々淡々と戦い危なげなく『4 連覇 5 度目優勝』達成。52 回県高校総体は常勝の重圧はねのけ、“強豪”好間と対戦 3 対 1 で退け『6 連覇』達成。56 回東北大会は二次リーグ青森山田に 2 対 0 で勝ち、山形工を 2 対 0 で下し、決勝は山形の雄“羽黒”相手に 4 対 0 で完勝『3 連覇 3 度目』優勝果たす。現時点では県、東北では向うところ“敵無し”状態でした。

金鷲旗へ乗り込み。順調な滑り出しで 4 回戦を勝ち上がり。5 回戦で強豪“崇徳”を破り、6 回戦パート決勝で日体荏原に敗れはしたが『ベスト 16』。後日開催の“東鷲旗”では日体荏原にリベンジ！競り勝って優勝を飾った。力は十分ある。

大阪 IH 個人戦は『90kg 級：内藤雄大が第 5 位入賞』もう一つ上を狙いたかった。73kg 級郡司成晃 2 年。100kg 級渡辺裕也 3 年。100kg 超級鈴木周平 3 年。女子 70kg 級久野澄子 2 年が出場。

兵庫“のじぎく”国体は選手五人が A11 田村での出場。（先鋒：岩崎 3 年、次鋒：郡司 2 年、中堅：裕也 3 年、副将：内藤 3 年、大将：鈴木周 3 年）で挑む。兵庫県灘は嘉納治五郎師範誕生の地、名門「灘中」は造り酒屋嘉納家が設立された私学です。一行は「つばさ交通」貸し切バス利用（吉澤社長運転）にて、いざ兵庫国体へ出発したのです。

岩崎竜也主将コメント、「2 年の夏休み主将になり、務まるか多少不安もあったが、試行錯誤しながら自分達のチームカラーを出して行こうと練習内容や試合前のアップを創意工夫して挑んだ、新人戦、県高校選手権、県高校総体県大会の連覇をはじめ、東北大会での『3 連覇』は、優勝が決まった瞬間、応援席のみんなを見たら

“武ちゃんは両手突き上げて”叫んでいた。“星野は目に涙を浮かべて”喜んでいました。この3連覇は本当に選手も控えも関係なく“部員全員の力”で勝ち取ったものだと感じました。」当時の岩崎竜也主将のコメントです。あの頃のシーンが今なお蘇るようです。

県柔道選手権では新田沙也加が本領発揮！大学生をなぎ倒し無差別級で優勝を飾ったのです。その後、高岡法科大学でも大活躍し、全日本柔道選手権大会（皇后杯）にも二度出場するなど活躍は後輩達の励みとなっております。



2008年（平成20年卒）

黒沢吉信主将他15名（郡司、渡辺、横山、白石、新田、斎藤、一宮、深谷、五十嵐、梅津、作田、添田、諸越、女子主将久野、郡司美）。人柄良くまとめ役の吉信軍団。男女共に記録づくしの学年でありました。29回県高校選手権決勝は平工と対戦3人残しで下しての『5連覇6度目』優勝。女子団体も頑張って『初優勝』成し遂げる。田村高校“初のアベック優勝”続く29回東北大会男子決勝は“強豪”山工と対戦二人残しで撃破し『念願の“初制覇”』成し遂げました。東北に“田村の時代”がやって来た！と感じました。53回県高校総体は『7連覇』達成。“常勝”好間の記録を更新。県高校“史上初”の記録です。個人戦も“3年連続優勝”記録を『73kg級郡司成晃選手3年』と『70kg級久野澄子選手3年』が成し遂げた。これも、なかなか達成できない記録ですよ。男子は二人目、女子は初じゃないかな。郡司成晃選手は東北ジュニアも二連覇達成です。高校生でこれも凄い記録です。

56回佐賀IH団体戦は1回戦和歌山北と1-1の引き分け。2回戦は北越に敗れ予選敗退。個人戦は郡司成晃選手が肩の痛みと闘いながらも勝ち進み『73kg級第3位入賞』。満身創痕の身体で、よくぞ戦いきりました。3回戦で地元佐賀商の原と対戦背負投げで一本勝ち。準々決勝は天理の辻との一戦、得意の掬い投げが決まり一本勝ち。準決勝は問題の森下との一戦。途中棄権も考えてタオルを投げそうになりましたが、本人は最後までチャレンジする！気持ちでした。了徳寺の医療スタッフにお願いして治療を受けながら、片手が使えない大変過酷な試合となり優勢負けとなりました。監督席でアドバイスも出来ず正直辛かった。試合後は、この借りは大学進学後に返そう！と言ったと記憶している。（後で分かったことだがライバルは同じ大学へ進学したのです。）その他の5選手もベスト16入りするなど大躍進を遂げた。81kg級織田隆久2年2回戦敗退。90kg級横山智樹3年は『ベスト16』入り。1、2回戦ともに得意の一本背負い投げで勝利。勝負の3回戦は大垣日大藤原にGS効果奪われ惜しくも敗退。100kg級梅津知弘3年『ベスト16』。2回戦は高水赤尾を一本背負いで破り、3回戦は国士舘寺島に合わせ技で敗退。女子52kg級郡司美幸2

年「ベスト16」入り。1、2回戦を順調に競り勝ち。3回戦は鹿児島南西園に内股で回されてやられた。63kg級金澤智恵2年『ベスト16』。1、2回戦を勝ち上がり絶好調、3回戦も元気娘は行けると思ったが国東河野の裏投げを食らい自滅。70kg級久野澄子3年『ベスト16』。2回戦は寝技に持ち込み得意の袈裟固めで一本勝ち。3回戦は絶対に勝つと言って挑んだ佐久長聖齊藤との一戦、過緊張によりいつもの攻めが出せずに悔しい敗退でした。願わくば、せめて一人だけでも入賞して欲しかったな。



2009年（平成21年卒）

高橋昂太主将他11名（織田、小泉、二瓶、廣野、田母神、庄子、女子主将金澤、郡司、小川、笠井、渡邊）。縁あって北上江釣子スポ少出身の高橋昂太が入学。いよいよ天下取りへ挑戦する。県新人大会決勝は昌平と対戦3対0で無欲の『7連覇』。30回県高校選手権決勝は昌平と対戦3人残り完勝『6連覇7度目』達成。女子決勝は宿敵湯本と対戦①対1内容差で価値ある『2年連続2度目』優勝。30回東北大会決勝は青森北に3人残り貫禄の完勝『2連覇2度目』。女子団体は金澤主将がチームをまとめあげ、圧倒的な強さで、決勝金足農に3対0で『初優勝』飾る。“男女団体アベック優勝は東北史上初”です。

待ちに待った3月20日、日本武道館開催の第30回全国高校選手権大会は、“悲願”の世田谷学園撃破！福島田村が大金星！！県勢初8強。田村は県勢初の8強に進出となった。3回戦では大会最多10度の優勝を誇る世田谷学園を破る大金星を挙げた。準々決勝は強豪大成に完敗となった。田村の選手達は唇をかみしめた。初戦で左鎖骨を痛めながら戦った高橋主将は「大成の前試合を見て圧倒された。気持ちで負けていた。」と悔やんだ。それでも初の8強進出だ。胸を張れる戦だ。2回戦で優勝経験のある旭川龍谷を下すと、名門世田谷学園まで破った。その3回戦は中堅技の切れる織田隆久が肩車と背負投げで、相手の次鋒、中堅を芸術的な一本勝ち。織田は「全国の試合は今回が初めて、気持ちよかった」と、勢いに乗せた。世田谷学園（講道学舎）は今大会が最後の試合となる。また、チーム内に大野将平がいることはあえて話題にしなかった。従って大野に対して先入観も、臆することも無く戦えたのかも知れない。当然相手は田村の織田を意識するようなことはなかったでしょう。実際、織田のシャコタン背負いが完璧にはまって一本勝ち。審判もオドオドして一本を取り消すジェスチャーする場面があり明らかにプレッシャーがかかりおかしかった、副審二人とも冷静に一本を示したので取り消されなかった。味方されない審判であっても、この日の田村は覚悟を持って挑む武道家の姿があった。取って取られてのシーソーゲームの中、副将昂太主将が粘りに強く背負いで有効を奪

うとおかしな反則指導？取られて、結果引き分け。大将小泉が登場、相手も逃げないし向ってくるので必ずチャンスが来ると思った瞬間、電光石火の狙い澄まして掛けた払い腰が決まった。一人残しの大勝利。歴史的勝利の瞬間！あの時、日本武道館内がザワついていたのを今でも覚えている。“世田谷が田村に負けたぞ！！” えっ田村に、そうなん！・・・・・・・・。

54 回県高校総体は決勝で昌平と対戦し 4 対 0 で圧勝『8 連覇』達成。女子は相馬女子を相手に 2 対 1 下し『初優勝』。個人は 60kg 級田母神、81kg 級織田、90kg 級高橋、100kg 級二瓶、100kg 超級小泉がそれぞれ優勝。58 回東北大会決勝は青森北と対戦、中堅小泉と副将昴太が取って②対 2 の内容勝ち『2 年ぶり 4 度目優勝』。個人は 60kg 級田母神、90kg 級高橋、57kg 級小川それぞれ優勝。

埼玉 IH 団体は作陽に 0 対 3 で敗退。女子団体は初出場。1 回戦は日本航空に先鋒金澤有効を奪って勝ったのが大きい。中堅左利き笠井未が巧みに引き分けたこれもまた大きかった。大将渡邊はジャブザマーに対して怯むどころか逆に取ってやるぞと攻撃姿勢には恐れ入りました。攻撃は最大の防御を再確認させられた一戦。結果①対 1 の内容差で大勝利です。二回戦は福岡敬愛に 0 対 3 で完敗。個人戦は『90kg 級高橋昴太選手第 5 位入賞』。60kg 級田母神武斗 3 年は 2 回戦敗退。81kg 級織田隆久 3 年は 1 回戦北越吉井に送り襟絞めで一本勝ち。2 回戦が勝負国士館の住谷との一戦 GS 8 分意地と意地の張り合いで互角の戦いでしたが審判に味方されず悔しい敗退。100kg 級二瓶俊樹 3 年は 2 回戦、和歌山那賀黒田に負け。100kg 超級小泉徹也 3 年は 1、2 回戦危なげなく勝利。3 回戦は足立武山と対戦、指導 1 差で悔しい敗退攻めの遅さが敗因か。女子 52kg 級郡司美幸 3 年は 2 年続けて『ベスト 1 6』。3 回戦は藤枝順心加賀谷に苦手な内股で回された。57kg 級小川裕未 3 年は 1 回戦福岡舞鶴の古後に後手に回ってしまい有効取られ敗退。63kg 級金澤智恵 3 年は 2 回戦からの登場、松商学園試合巧者の宮下相手に効果取られて悔しい敗退となった。

大分国体は『本県初のベスト 4』。準々決勝の埼玉戦は“ハラハラドキドキ”、1 敗 1 分けで迎えた中堅戦は織田隆久 3 段が登場、一気の攻めから一瞬の隙を狙い朽ち木倒しで一本勝ち。星を五分に戻すと、副将戦は高橋昴太 3 段が指導を取られた後、狙い澄ました大内返しで鮮やかな一本勝ち。大将小泉徹也は責任重大のプレッシャーかかる場面、有効を奪われながらも保護者と当時県体協役員の大応援団の力も得て、集中力を切らさず対応した結果②対 2 の内容勝ちを収め、価値あるギリギリの勝利を手中に収め『第 4 位入賞』大健闘です。

福島県柔道選手権大会は、一般無差別級で高橋昴太選手が高校生として『初優勝』果たす。新聞各社にデカデカと掲載。全日本柔道選手権大会の東北予選会に出場決定！大会での活躍が認められ東北・北海道対抗試合にも選出された。東北・北海道対抗試合は久慈市民体育館で行われ、両チーム 20 人ずつが対戦する。東北軍は 12 対 8 で勝ち。11 年ぶり優勝を果たした。東軍の先鋒として出場した高橋昴太選手は北海道の久保選手に先手必勝の勝利。この勝利が東北軍に勢いをつけたのは間違いのない MVP 男だ。今大会には江釣子スポーツ少年団の選手達が応援に駆けつけてく

れた。昴太先輩がんばって！と声援が嬉しかったです。高橋英樹先生（昴太の恩師）ありがとうございます。心から感謝申し上げます。



2010年（平成22年卒）

吉田裕輝主将他11名（増子、助川、鈴木、荒川、北村、後藤、三瓶、女子主将深谷、小林、郡司、猪狩）。物静かな性格だが集中すると異彩を放す軍団でした。31回県高校選手権決勝は助川が切り込み隊長で3人をやっつける戦法、中堅エース増子が好間の副将柳沼と大将高木を圧倒して破り。『7連覇8度目優勝』達成。55回県高校総体決勝は宿敵好間と対戦4対0で圧倒的な勝利を収めて『9連覇』達成。好間の記録9連覇と並ぶ。女子も決勝はライバル湯本と対戦1対0で大将戦の末小林が内股で一本を決め、2年連続『2連覇』を達成する。

夏の腕試し金鷲旗は5回戦で地元福岡の福大大濠と対戦し敗退。近畿（天理）IHは日体荏原と対戦、先鋒助川組手争いから得意技で攻めるも僅差負け。次鋒吉田潤は強敵森内に合わせ技で敗退。中堅三瓶は寝技に持ち込むも上四方固めで一本負け。副将下田は真っ向勝負でガツガツ勝負するも決め手無く引き分け。大将増子は奮起して合わせ技一本勝ちするも時既におそし。女子団体は立命館宇治と対戦、先鋒猪狩絞め技で一本負け。中堅深谷は前に崩され小内刈りで一本負け。大将小林は得意の内股で有効を奪ったが1対2で敗退。個人戦は60kg級佐藤剛2年。81kg級大堀直也1年。90kg級吉田潤樹2年。100kg級増子雄太3年。100kg超級大和田巧1年。女子78kg超級小林慶子2年の6人とも振るわず初戦敗退となった。

全国高校体育学科・コース大会男子団体はリーグ戦で石川の津幡に敗戦。女子団体は予選リーグ1回戦、熊本西に1対1引き分け、2回戦は光明相模原に1対1の引き分け、リーグ内容同点により抽選の末、決勝トーナメント進出ならず。残念！。

この学年の皆さんは、亀の様に地道にコツコツ頑張り実力を付けてきた学年、努力できる才能の持ち主であると、その当時から思っていました。





2011年（平成23年卒）

吉田潤樹主将他9名（下田、織田、佐藤、菊地、渡邊、女子主将青山、小林、横田、小針）。選手選びも公正な選出で信頼築き、心技体で栄冠掴んだ選手たち。49回県新人大会男女V！32回県高校選手権決勝男子団体は相馬と対戦、先鋒潤樹が電光石火の攻撃で4人抜きを果たすと、次鋒大堀は天下の宝刀、背負投げを見事に決めて一本勝ち。『8連覇9度目』達成。女子は宿敵湯本と対戦1対1で迎えた大将戦で小林が満を持して志賀を内股で放り一本勝ち、2対1で優勝を決める。アベックV！男子個人は60kg級佐藤、81kg級大堀、90kg級吉田潤、無差別級は大和田の四人が優勝。女子個人は57kg級青山、無差別級小林の二階級優勝！56回県高校総体決勝男子は“王者の貫禄”昌平と対戦4対0で圧倒的な強さで『10連覇』達成。女子団体は湯本に2対1で競り勝ち『3年連続3度目』お見事でした！男女とも入学以来たゆまぬ努力が実を結び、東北総合体育大会柔道競技“男女優勝”偉業達成。

日本武道館開催の第32回全国高校選手権大会は90kg級吉田潤樹『第5位入賞』。無差別級小林慶子『第5位入賞』と夢の日本武道館で二人が入賞する。

沖縄IHは全員柔道で挑んだが田村4強ならず。“悔しい完敗・・・後輩に夢託す”。民報新聞の取材より、潤樹主将のコメント。「先生に恩返しがしたかった。潤樹主将はこみ上げる悔しさを抑えきれず無念の涙を流した。1回戦は高松商を4対0で完勝。2回戦は東海大三校に②対2の内容差で競り勝ち。3回戦は地元沖縄尚学の②対2でこれもまた競り勝って準々決勝へ、4強入りを懸けた準々決勝修徳戦。先鋒の大堀は奮闘するが一步及ばず、次鋒潤樹主将は果敢な攻めを見せるが、白熱した試合は一瞬の隙を突かれ大内刈りをくらってしまった。中堅下田、副将室井、大将大和田も冴えなく敗れてしまい完敗を期した。

「全国制覇」いつからか吉田潤樹主将にとって特別な言葉になっていた。下山田監督の指導を受け、2年生中心の若いチームの主将として引っ張ってきた。厳しい練習の中でも選手を気遣う下山田監督を信じて『柔の道』を歩んできた。“この悔しさを忘れるな”。と吉田潤樹主将は後輩に夢を託す。沖縄で刻まれた敗戦を胸に、来年への新たな田村の助走がはじまったのであります。男子個人戦は『100kg 超級大和田巧2年第3位入賞』。1、2回戦を危なげなく勝ち上がり、3回戦は高志長部を大外刈りで仕留めると、準々決勝戦は四日市中央工の村木を残り1秒“執念の小外刈り”決まり準決勝へ進出。今大会の田村のスタッフ陣（角田誠コーチ、佐藤豪トレーナー、特別コーチ櫛田文男先生）の連日連夜トレーニングから早朝アップ、懸命なマッサージ等々が功を奏した。準決勝は戸山の田上と対戦これはやれると思ったが、意外にバランス良く身体能力が上回っていたと感じた。

今大会は多くの先生方が沖縄まで帯同してくれて選手達のコンディションを整えて頂きました。この場を借りて改めて御礼を申し上げます。60kg級佐藤剛3年は1回戦科学技五十嵐にGS指で敗退。81kg級大堀直也2年は2回戦作陽後藤に有効で敗退。90kg級吉田潤樹3年は2回戦桐蔭丸山に内股で敗退。100kg級下田奎介3年は2回戦沖縄尚学平良に有効で競り勝ち。3回戦は小杉の業師谷井に技有奪われ敗退。

女子 78kg 超級小林慶子 3 年は 1 回戦小杉四十九に GS 指で勝ち。2 回戦は八千代竹本に大外刈りで敗退したが、多くのことを学んだ沖縄大会でありました。



2012 年（平成 24 年卒）

大堀直也主将他 14 名（室井、佐藤、吉田、大和田、小林、小針、神村、秋山、荘子、山本、国分、女子主将深谷、真船、熊田）。新たな強化策として喜多方一中（小野里先生）大堀、室井を勧誘。いわきからは大和田、吉田、佐藤、小林、荘子を勧誘した。H23. 3. 11 東日本大震災と東京電力福島第 1 原子力発電所の爆発。優勝をめざしている矢先の 33 回全国選手権大会は通達が入り『中止』。福島第 1 原発から約 50 キロの田村は、避難区域から外れていたが、学校は避難所となり、部活動は中止。食糧配食や救助物資の運搬などのボランティア活動を重視して練習再開は 4 月。保護者会が心配され熟慮の末、天理大への遠征合宿行い失った柔道勘を取り戻した。33 回県高校選手権決勝は昌平相手に大堀主将が獅子奮迅の姿で先鋒丸山を体落としで一本勝ちすると次鋒から大将まで全て背負投げで一本勝ちする完全勝利『9 連覇 10 度目』達成。4 試合すべて先鋒 5 人抜き圧倒的完全 V！57 回県高校総体は準決勝で好間を 4 対 0 で下し、決勝では昌平と対戦し 5 対 0 と失点なく『11 連覇』達成。常勝軍団に気負いはなかった。初戦から決勝まで、誰ひとり負けることなく、11 連覇を成し遂げた。主将の大堀直也は「選手一人一人が役割を果たし、ミスがないよう心掛けたと振り返った。」吉田洋平と大和田巧はいわき市出身。同市では東日本大震災の津波で大きな被害を受けた。「地元にも少しでも明るい話題を届けたい。」と二人は特別な思いを胸に試合に臨んだ。その気持ちが他のメンバーにも伝わり、部員全体が心をつなげて一戦一戦を勝ち抜いた。目標は「全国制覇」。昨年のインターハイでは団体ベスト 8。個人 100kg 超級で 3 位入賞。昨年のメンバーも多く残っている。県内や東北で頂点に立つのは、あくまで通過点。部員は全国の舞台に向け、気合いを入れ直した。東北大会では羽黒相手に中堅大堀と大将大和田が一本勝ちし②対 2 の内容勝ちで『2 連覇 6 度目』達成。

金鷲旗は福島から唯一出場、攻めの姿勢貫き、田村は堂々の 16 強。修徳と接戦を演じ自信に繋がった。

秋田インターハイ、毎日新聞取材より“震災乗り越え田村 3 位”震災で柔道と切り離された半月が、選手達の心を鍛えた。昨年の 8 強過去最高だった田村が 3 位に入る健闘を見せた。練習にも工夫を加え、修正改善繰り返しながら挑んだ全国の舞台は、初戦は兵庫育英戦、緊張で身体が動かない中、室井、大堀、大和田が無難に勝って 3 対 1 で初戦を勝ち切る。2 回戦の福井工大附戦は先鋒郡司が有効勝ち、次鋒室井は技有勝ち、中堅大堀はとどめの背負投げ一本。大将大和田は豪快な払い腰で

決め4対0で圧倒した。3回戦は優勝候補の一角崇徳に対し次鋒室井が有効勝ち。中堅大堀が“裏投げ一本”に決めて2対1と競り勝った。準々決勝は育英を相手に先鋒郡司引き分け。次鋒室井“小外刈りで一本”を決めた。中堅大堀が相手のポイントゲッターを技有で下し、大将大和田が“反則勝ち”を収めて3対1で勝利して準決勝へ進出。準決勝の作陽戦は先鋒郡司が“大内刈り”で有効を奪い先攻したが、次鋒、副将、大将がやられて1対3で敗れました。主将大堀は「これまで多くの人の支えでここまで勝てた」と感謝を口にした。個人戦81kg級佐藤正樹3年は浦安“ベイカー”に裏投げで負ける。90kg級神村有輝3年は埼玉栄の小林に内股でやられる。100kg級郡司駿2年は小松大谷北山に送り襟絞めで敗退。100kg級超級大和田巧3年は3回戦“難敵倉橋”に指導2で敗退。女子57kg級莊子あゆみ2年2回戦松商学園諏訪部に有効負け。63kg級泉成美2年は宮崎商松本に合わせ技で敗退した。

福島県選手権大会は“90kg級優勝大堀直也”“無差別級は優勝大和田巧”その後、全日本選手権大会の東北予選会に出場し、県警の猛者たち相手に互角に戦ったのだから末恐ろしい心臓の持ち主、今後が楽しみです。

山口国体少年男子は2回戦栃木と対戦大堀、大和田が共に一本勝ちする活躍により3対1で勝利。準々決勝は京都と対戦やはり“丸山、大堀、大和田”三人の大活躍により3対2で競り勝ち、“堂々の4位入賞”民報新聞記事より、『県勢過去最高タイの”第4位入賞”』。1位から3位まで関東勢が独占する中で“価値ある入賞”である。『主将大堀直也は震災で練習ができない状況があったが、東北代表・福島代表として“福島に元気を送ることが使命”と考えて、多くの支えを受けての入賞です』。を真っ先に口にしたのです。



2013年（平成25年卒）

宗像優主将他7名（郡司駿、郡司昂平、佐藤光、佐藤卓、渡辺優、女子主将泉、莊子）。東日本大震災の影響を受け、他県へ避難してそのまま転校する者がいる中、落ち着かず苦悩しながらも必死に耐えて、最後は学校、保護者会との協議を行いながら立て直した学年でした。

第6回女川町長旗は“復興支援”として、「全国高等学校選抜柔道錬成三春大会」

の開催経緯は、田村柔道会顧問の鈴木俊祐・内藤忠両氏と共に鈴木義孝三春町長に直談判したところ、女川町長旗の名称を残して復興支援とし、前代未聞ながら女川町が立ち直りまでお預かりしましょう。と言って下さったのです。町議会が全会一致で補正予算にご賛同下さり、三春での実施となったわけです。34回県高校選手権決勝は日大東北を先鋒郡司が怒濤の攻撃柔道で星、児島、阿部、波田野の4人破り、次鋒荒が大将大塚を背負投げで仕留め『10連覇11度目』達成。個人無差別級決勝で昌平秋場を破って荒が一年生V!“決勝はわずか16秒背負投げで一本勝ち”東北大会は3位入賞果たす。

女川町長旗復興支援「全国高校選抜柔道錬成三春大会」は準決勝で崇徳に0対3で敗れたが『3位入賞』。全国から18チーム、本県から田村、聖光、日大東北、県選抜、県南選抜チームが出場した。58回県高校総体決勝は昌平と対戦、先鋒岩崎は菅沢を送襟絞め一本勝ち。次鋒荒は生信を優勢勝ち。中堅郡司駿は吉田を背負投げ一本勝ち。副将郡司昂平は小山を袈裟固め一本勝ち。大将宗像は秋場を優勢勝ち結果5対0で『12連覇』を達成。大変良く頑張りました。

富山IH団体戦は1回戦で日体荏原と対戦0対3で敗退。個人戦90kg級郡司駿3年、足首に激痛が走り試合できる状況でない中、1回戦は平田小川を上四方固めで下し勝利。2回戦は長崎南山の山口に僅差で敗退。100kg級佐藤光3年は1回戦近江花木に優勢で敗退。ここまで良く不屈の精神で頑張りました。女子63kg級泉成美3年は1回戦平田 張に払い腰で敗れる。



2014年（平成26年卒）

岩崎康介主将他6名（荒、井戸川、永井、鈴木、女子主将佐藤、深谷）。これぞ柔道の醍醐味を見せてくれた“業師たち”。35回県高校選手権決勝は好間と対戦し3人残しで『11連覇12度目優勝』達成。東北大会決勝は代表戦に岩崎が直訴により志願で“真っ向勝負”挑む。小さな巨人康介。

36回松前杯は東海大札幌校舎で開催され田村は初参加。3回戦津幡に2人残しで勝ち。準々決勝で今大会優勝の東海大浦安と対戦、先鋒田辺は田島と引き分け。次鋒増子は前田と引き分け。中堅安部は村田に合わせ技で敗れる。副将荒が背負投げで取り返し、副将折原の内股で破れる。大将岩崎が内股で放ると、大将ウルフを引っ張り出した。疲れのある岩崎主将最後はパワー負けで大外刈り一本負け。結果ベスト8入り。東海浦安とガチの勝負見応え有りました。お疲れ様。

59回県高校総体決勝は好間と対戦5対0と皆の力で『13連覇』達成。V13!はあくまで通過点。63回東北大会決勝は圧倒的強さで東海山形を3対1で下し『2年ぶり7度目優勝』。個人戦は66kg級岩崎、100kg荒が前評判どおり優勝。

福岡 IH は快進撃の田村！初戦は大阪上宮と対戦、先鋒康介選手が開始早々“小外刈り”一本。中堅諒太選手が“上四方固め”一本勝ち3対0で快勝。2回戦は北信越チャンピオンチーム津幡と対戦、先鋒康介選手が“回転地獄絞め”で一本勝ち。中堅諒太選手が得意の“シャコタン背負い”で担ぎ優勢勝ち。副将源大選手は一瞬の隙を突いて“横四方固め”で一本勝ち3対0の無失点での完勝。迎えた3回戦は東海大甲府との一戦0対5で完敗。課題の残る試合となる。個人戦は66kg級岩崎康介3年2回戦で東海五村上に小内刈りで敗退。90kg級田辺巧2年は1回戦箕島西山にGS指導で敗退。100kg級荒諒太3年1回戦関西鈴木にGS指導で敗退。100kg超級鈴木源大3年は1回戦を勝ち。2回戦大成名垣浦に払い腰で敗退。女子78kg超級佐藤安里3年は夙川荒巻に体落として敗退となった。



2015年（平成27年卒）

安部晴輝主将他6名（増子、熊田、田辺、星、斎藤、鈴木）。“幸運の女神は笑顔と謙虚な諸君に舞い落ちる”36回高校選手権決勝は先鋒田辺が昌平先鋒天蔵を横四方固め一本。次鋒古市を袈裟固め一本。中堅大津に引き分け。次鋒増子が小林を縦四方固め一本。大将坂本を後袈裟固めで一本勝ち、4人残りで勝利『12連覇13度目』達成。個人は81kg星、90kg田辺、無差別級増子がそれぞれ優勝した。

36回全国高校選手権大会初戦は島根の平田戦。前日81kg級の覇者佐々木健志をどう攻略するか。先鋒優平選手が3人抜いて佐々木を引き出した。次鋒晴輝選手が時間いっぱい闘い佐々木へロヘロ状態。中堅智也選手が立技から寝技に誘い肩固めで仕留める。2回戦は長野の松本第一、先鋒優平、次鋒巧、副将智也の活躍により2人残りで完勝。続く準々決勝は神戸国際に対して真っ向勝負を挑んだが身体の圧力に屈した。60回県高校総体決勝は田村（先鋒星、次鋒田辺、中堅熊田、副将安部、大将増子）の5人が日大東北相手に全て一本勝ち5対0で完全勝利『14連覇』達成となった。

千葉IHの団体戦は崇徳に0対3で敗退。個人戦は73kg級相浦佳斗『ベスト16』入り。2回戦佐賀北江田に優勢で勝利。3回戦は近江橋本に優勢で敗退。81kg級星優平3年は1回戦高川安村に優勢勝ち。2回戦近江北村に小内刈りで敗退。90kg級田辺巧3年が『ベスト16』。100kg級3年安部晴輝2回戦東京学館中野に指導2で敗退。100超級3年増子智也『ベスト16』。1回戦地元東海大浦安村田に足三角固めで勝利。2回戦は旭川龍谷福田に大外刈りが決まり勝利。3回戦は神戸国際新井に抑え込まれて敗退となった。

徳原杯（5勝2敗）で『準優勝』。課題の残る試合展開ではありましたが諸君の常に全力プレーとあふれる笑顔は保護者会の皆様に元気と活力を与えてくれました。



2016年（平成28年卒）

谷優馬主将他9名（相浦、手塚、遠藤、荒川、佐藤、泉田、高野、渡部、三瓶）。チャレンジ精神で我が道を切り開く学年。54回県新人大会決勝は日大東北に5対0圧勝『14連覇』。37回高校選手権決勝は日大と対戦、先鋒手塚3人抜いて、次鋒遠藤が二人を合わせ技で下して4人残して『13連覇14度目』達成。個人は60kg渡部、73kg相浦、無差別級遠藤が優勝。東北大会は準決勝で山工に敗れて3位入賞。

復興支援全国高校選抜錬成三春大会は予選リーグ三勝で1位通過。決勝トーナメント1回戦は東海大浦安に代表戦で勝ち、2回戦神戸国際に1対3で敗退、ベスト8

61回県高校総体決勝は若商と対戦、先攻されるも、次鋒手塚、中堅谷、大将遠藤の主軸が一本勝ちを収めてヒヤリとしながらも3対2で『15連覇』達成しました。近畿（天理）IHの団体は木更津の巧みさに翻弄され完敗。個人は地元天理の選手相手に絞め技で一本勝ちした相浦佳斗『第5位入賞』。個人戦は100kg級遠藤速門3年、100kg超級谷優馬3年が出場。

7月15日（水）復興支援事業「国際柔道交流会」を開催。ハワイの柔道キッズ37名来日！田村全校生対象にケビン・アサノ会長の講演会、キッズのダンス披露、その後は道場で柔道交流実施。夜は若松屋旅館にて三春町太鼓披露と懇親会開催。ケビン・アサノ会長のルーツである保原の浅野家本家の長男浅野嘉尚（5段）先生も参加。（米国柔道連盟会長ケビン・アサノ、ソウル五輪銀メダル）講道館から特別講師として持田達人氏（全日本柔道強化委員）が派遣され技術指導を受ける。二段小外刈りはかかりそうでした。覚えたいと思った。



2017年（平成29年卒）

斉藤大輔主将他9名（国分裕、渡部、熊田海、萩、永井、島貫、國分陽、熊田浩、吉田、）。驚き！大輔先生は農大卒業後母校明野中学校へ勤務。現田村柔道部の小野塚、西村は教え子です。高校時代から気は優しく力持ち、何事も物怖じしない堂々とした風貌。55回県新人大会決勝は光南に4対0で優勝『15連覇』。38回県高校選手権決勝は若商と対戦（先鋒熊田、次鋒瀧澤、中堅杉山、副将斉藤、大将国分の布陣）二人残しで退け『14連覇達成』。個人は全階級制覇！60kg渡部、66kg萩、73kg矢野、81kg杉山、無差別国分がそれぞれ優勝した。

『わんぱく柔道教室』は山下泰裕先生主導で福島県初の開催となった。スポ少選手への指導が中心であったが田村の選手達もお手伝いしながら山下泰裕先生、中西英敏先生の丁寧で貴重な技術指導を受けることができた。講習修了後の懇親会での地元東海大学OB達も参加となり、山下先生を囲みグラスを片手に乾杯しました。滞在時間は当初1時間でしたが、盛り上がり過ぎて時間オーバーしましたね。結局中西先生が飲まず運転してお帰りになったと記憶しております。世界の柔道状況から愉快的な話まで料理もお酒も最高でした。大変有意義な勉強会となりました。

黒潮旗（東海大学主催）大会は2回戦で桐蔭学園に0対2で敗れる。松尾三郎杯（國學院大學主催）は3回戦で埼玉栄に2対3で敗れた。水田三喜男杯（城西国際大学主催）は決勝で大成に5対0と大敗だが内容は価値のある敗戦でその後に繋がるものであった。東北大会は決勝で本荘に1人残しで敗れ悔しい『準優勝』です。

魁春旗争奪全国高校選抜錬成三春大会は準決勝で崇徳に敗れ『第3位』。62回県高校総体決勝は（斉藤、国分、熊田、瀧澤、杉山、矢野、島貫）光南相手に4対0と失点なく『16連覇達成』。66回東北大会（斉藤、国分、熊田、島貫、瀧澤、杉山、矢野）決勝は新庄東を3対2で退け『8度目優勝』。個人は60kg 渡部、66kg 島貫の2人が優勝しました。

島根 IH 団体戦は天理スター軍団に撃沈。個人戦 66kg 級の島貫蓮選手は準々決勝で優勝候補の石郷岡と互角の戦いの末『第5位入賞』勝てたよね。60kg 級は渡部禄也3年当たりが悪い地元期待の小平に指導2で敗退。73kg 級矢野修弘2年新田 米澤に横四方固で敗退。90kg 級瀧澤秀斗2年1回戦はくせ者足利 長島指導2で勝利。2回戦は兵庫育英 清水に優勢負け。100kg 級斉藤大輔3年は天理 矢野小外刈で敗退。100kg 超級国分裕輝3年『ベスト16』。1回戦は比叡山 北川に浮き落としで勝利。2回戦は新田 柳瀬に不戦勝。3回戦は崇徳 長岡にパワーで捻られて敗退となった。



2018年（平成30年卒）

瀧澤秀斗主将他8名（杉山、山田、矢野、三浦、宗像、小林、橋本、竹内、）は“福島空に大輪の花を咲かせて、大きく羽ばたく優秀選手たち”。56回県高校新人大会決勝は光南と対戦し4対1で『16連覇』達成。39回県高校選手権は田村（矢野、宗像、小林、杉山、瀧澤、三浦、橋本）は決勝で昌平相手に3人残しで貫禄の『15連覇』。東北大会は瀧澤が5人抜きするなど随所に見せ場作ったが、準決勝で新庄東の阿部に組手の上手さで翻弄され、悔しさ残る敗退でした。

魁春旗三春大会は『連続3位入賞』。準決勝では今大会優勝の桐蔭学園に敗れたが、2勝を上げてしぶとく食い下がった。全国の強豪相手に攻めの姿勢を貫き、地元IHに向けて弾みをつけた大会となりました。

63 回県高校総体は重圧はねのけ『17 連覇』達成。67 回東北大会は決勝で盛岡中央を 4 対 1 で圧巻の『2 連覇 9 度目』優勝。個人は 81kg 杉山優勝。73kg 矢野準優勝。90kg 瀧澤 3 位。国体予選は田村が全階級制覇となったのです。

南東北（福島）総体 2017 開会式は“瀧澤秀斗主将”の選手宣誓ではじまりました。次に形の演舞が始まった。取は宗像矯初段。受は竹内俊輔初段が“投の形”を実演。緊張の中、取り受けの息ぴったりで、たいへん立派でした。拍手喝采！！生涯にわたり良き思い出になったことなのでしょう。個人戦は大舞台へ闘志燃やして、田村の杉山海選手が寝技駆使して初戦から激しい戦を制して、『81kg 級杉山海が第 3 位入賞』。次に瀧澤秀斗選手が団体の悔しさバネに、自分の持てる力を全て出し切って、『90kg 級は瀧澤秀斗が第 3 位入賞』獲得した。66kg 級は山田蒼也 3 年。田邊翔輝 2 年。73kg 級は矢野修弘 3 年。90kg 級は賀澤翔海 2 年がそれぞれ出場して自分の柔道をやりきった。当日は廣瀬敬彦校長（県高体連会長）が観戦。準決勝前のアナウンスに感銘。二人の名前と学校名が呼ばれた瞬間の大声援に鳥肌が立ったとおっしゃった。田村柔道ここにあり、実に誇らしく感じたと回想した。



2019 年（平成 31 年卒）

尾見謙介主将他 4 名（賀澤、田邊、大夢、麻奈）正直一番心配な学年でした。ライバル校に県内の有力選手が揃っていただけに、この代で田村の歴史が終わってしまうのか。頭をよぎったのも事実でした。それでも名主務 麻奈様に助けられて、弱体チームに奮起させ、57 回県新人大会決勝は学石に賀澤選手が大腰で一本勝ち、尾見主将は引き分けて 3 対 0 で『17 連覇』達成。個人は 60 斉藤、66 田邊翔、81 橋本、90 田邊夢、100 鈴木がそれぞれ優勝。いよいよ本番の 40 回県高校選手権決勝はバタバタしながら昌平に 3 人残して『16 連覇 17 度目』ホッとした瞬間。個人戦は 60kg 斉藤、66kg 田邊、無差別鈴木が優勝。65 回県高校総体決勝は昌平に失点なく、2 対 0 で勝ちきり『18 連覇』達成。その勢いで 68 回東北大会決勝は秋田工に次鋒賀澤が足三角一本勝ち 2 対 1 で『3 連覇 10 度目』達成。良く成長しました。

三重 IH は初戦で四日市中央工と対戦 1 対 1 の代表戦で敗退。個人は 100kg 準々決勝で八木（崇徳）に負け『鈴木直登第 5 位入賞』。60kg 級 3 年斉藤大夢 1 回戦、73kg 級 1 年片山雄心 1 回戦。90kg 2 年田邊夢叶 1 回戦。52kg 3 年藤田望紗 1 回戦でそれぞれ敗退。新潟杯『第 3 位』。全国体育学科コース大会は『第 3 位入賞』でした。

福井国体は田村から三人（先鋒斉藤大夢 3 年、中堅田邊夢叶 2 年、副将鈴木直登 2 年）出場、今大会優勝候補の一角である千葉県と対戦し大将まで分からない展開でしたが結果 1 対 3 で惜しくも敗退となった。





2020年（令和2年卒）

鈴木直登主将他8名（田邊、橋本、大越、櫻庭、牧野、有馬、松井、泉田）田村で“日本一”めざそうと勧誘した精鋭軍団。直登、夢叶、健太、櫻庭が団体主軸。大越、有馬、牧野、泉田を個人戦チャンプへ。県新人戦から猛ダッシュ。男子団体は『18連覇』！個人“全七階級”制覇。41回県高校選手権決勝は平工戦、鈴木直登主将“5人抜き”で圧勝『17連覇18度目』優勝を飾った。個人は60kg大越3年、66kg有馬3年、73kg牧野3年、81kg片山2年、無差別級鈴木3年がそれぞれ優勝。“五階級完全制覇”であった！

新年早々、緑川理事長杯（東日本国際大主催）はロシア（イルクーツク森道場）を破り『初制覇』達成した。1月秋田開催の41回東北大会決勝は圧倒的強さで盛岡中央に3人残り『4度目優勝』成し遂げた。個人は60kg級大越、66kg級有馬、無差別級鈴木直登の3人が優勝した。

3月三春町開催の『第9回魁春旗争奪全国高校選抜柔道錬成三春大会は初制覇！』同大会の東北勢の優勝は初めて。田村は旭川龍谷、開志国際、木造との予選リーグ3戦は全勝で1位通過した。決勝トーナメント1回戦で長崎日大、準々決勝で新田を破って勝ち上がり、準決勝では桐蔭学園に②対2の内容勝ちで初の決勝進出を決めた。決勝では昨年優勝校の崇徳との対戦。次鋒戦で敗れたが、直後の五将が内股透かしで技有を奪い追いついた。副将で主将鈴木直登が小外刈りで技有を奪うと、そのまま抑え込んで一本勝ちを収めた。大将佐井川陽舜は終始前に出て最後は得意の内股で技有を奪って勝利し3対1で“悲願の栄冠”を獲得した。

41回全国高校柔道選手権大会団体戦は1回戦京都学園に一人残りで勝ち。2回戦名門前橋商と対戦し今大会個人戦73kg級優勝の石原を健太が止めての2人残りで勝ち。3回戦は“強豪崇徳”との対戦となり、重戦車の圧に屈してしまい涙の敗戦となった。個人戦は60kg級大越『ベスト16』、66kg級有馬2回戦敗退。73kg級牧野1回戦敗退。81kg級片山2回戦敗退。無差別級鈴木『ベスト16』（高橋翼と大勝負は大内刈りを返そうとして合わされた。）48kg級神尾52kg級藤田は共に1回戦敗退。

65回県高校総体決勝は田邊、片山、橋本、佐井川、鈴木、和田、伊藤の布陣。光南を5対0で圧巻の勝利を収め『19連覇』。個人は60有馬、66大越、73牧野、81片山、90田邊、100鈴木、100超佐井川、48神尾、52藤田がそれぞれ優勝。“男子全階級制覇”（高体連史上初）。69回東北大会の決勝は青森北と対戦4対1で完勝『4連覇11度目』達成。

鹿児島IHは2回戦で國學院栃木の超級3人の大型チームと対戦。田村は先鋒戦か

ら積極果敢に攻撃柔道を展開し結果4対1で完勝。3回戦も超重量選手の作陽と対戦、①対1の内容で上回る状況で迎えた大将戦、一進一退の攻防の末競り負けてしまった。たいへん悔しい結果となった。結果論だが、1ヶ月前に直登主将の言うとおり、副将に直登を入れていたら内容勝ちだった。監督の配置ミスが明暗を分けた感あり。“痛恨の極み”

46回東北総体は全勝優勝（オール田村）。茨城国体は練習試合も実施していたのでお互いが手の内を知り尽くしている、地元茨城との対戦、大将戦の末に敗れてしまった。ここに“勝負のあや”があるのです。

高校生活最後の試合となった“鈴木直登式段”『全日本柔道選手権大会東北予選会』において、1回戦：秋田県警石井五段を「合わせ技」で一本勝ち。2回戦：宮城県警酒井四段を「巴投げ」技有で勝ち。3回戦：岩手県警橋本五段にGS指導3で「反則勝ち」を収めた。決勝リーグに進出。三人での巴戦となる。初戦は中央大学4年生後藤参段を「合わせ技」で一本勝ち。2回戦は宮城県警制野参段に「合わせ技」奪われ敗退。この結果1勝1敗で『準優勝』確定。遂に中学校からの目標であり、高校生で“全日本柔道選手権大会に出場”する目標を達成したのです。『東北史上高校生初の快挙！』。嬉しいビックニュース！！



2021年（令和3年卒）

片山雄心主将他10名（佐井川、和田、佐藤峻、枝松、賀澤、佐々木、佐藤健、渋谷、女子主将藤田、神尾）。大堀直也新監督の船出。新型コロナ感染症に大変苦しんだ学年。全国大会は全て中止となる。新年早々、緑川理事長杯（東日大主催）は2連覇達成した。決勝3対2とロシアイルクーツク森道場と対戦し接戦の末に勝利。42回県高校選手権は『18連覇19度目』の優勝。コロナにより学校、クラス閉鎖など続き、66回県高校総体は中止となる。残念。

新潟杯高校柔道大会は開催され決勝は習志野に2対1で競り勝ち『初優勝』成し遂げた。埼玉武道館開催の全国高等学校体育科コース柔道大会は『第3位入賞』

12月国際武道大学主催の第36回若潮杯争奪武道大会は初参加。予選リーグは天理

に2対1。東海浦安に4対1。東海大翔洋に5対0で勝ち上がり。決勝トーナメント1回戦神戸国際に②対2の内容差で勝利。準決勝は国士舘に1対3で敗退したが初出場ながら堂々たる『第3位入賞』。

年が明け42回東北大会決勝は本来の力を見せつけ、仙台育英に4人残しで『2連覇5度目』大勝。個人は81kg級で片山雄心優勝。急遽出場の伊藤大峰1年が無差別級優勝。こんな幸運なことがあっていいものなのか少し心配！

神戸IHが残念であるが中止決定。その代替大会THE one 田村・山工親善柔道大会が田村柔道会主催で開催され、田村3年生（片山、佐井川、和田、賀澤、佐々木、枝松、）が4対0で勝ち。有終の美を飾りました。

3月全日本選手権東北予選会は佐井川陽舜が出場。予選を勝ち上がり、決勝三つ巴戦に進出して『第3位入賞』。あと一つ勝つと、夢にまで見た“全日本柔道選手権大会への出場”だった。チャンスはあった。



2022年（令和4年卒）

伊藤大峰主将他9名（武田、三浦、佐藤悠、瀬川、吉田、優璃、女子主将吉田、田中、千葉）のおもしろいメンバーが揃ったなと思いました。その通り43回県高校選手権は準々決勝で悠雅5人抜き、準決勝は幹太5人抜き、決勝は大峰5人抜き、失点なく圧巻の『19連覇20度目』優勝でした。67回県高校総体は他を圧倒して『21連覇』達成した。43回東北大会決勝は少しモタモタしましたが、山形の雄“羽黒”に真っ向勝負で挑み一人残しで『3連覇6度目』優勝を飾る。個人は柔道の醍醐味である無差別級で田村同士の決勝戦は初。結果は『1位：伊藤大峰、2位：武田幹太』。『女子48kg級1位：吉田早希』。48回東北Jr大会は100kg級伊藤大峰、100kg超級武田幹太が共に他を圧倒して優勝しました。

長野IHは無観客での開催となった。団体戦は初戦で“比叡山のしぶとい柔道”にやられた感が強い。個人100kg超級は武田幹太選手が今大会の超級優勝者である“愛知桜ヶ丘 笠井”に敗れて100kg超級武田幹太『第5位入賞』。あっぱれ！43回東北総体1位通過。しかし三重国体は新型コロナ感染症拡大により中止となる。



2023年（令和5年卒）

鈴木龍之介主将他5名。（渡辺、我妻、後藤、日下、鈴木皇）全中出場経験のない少し心配な学年。でも予想に反して県新人戦決勝は昌平を4対0で下し優勝『21連覇』。個人戦は五階級（73kg級日下、81kg級甲地、90kg級後藤、100kg級渡辺、100kg超級鈴木皇）優勝すると、44回県高校選手権決勝は昌平を渡辺が二人に勝ち、後藤が3人を合わせ技、反則勝ち、引き分けと戦い『20連覇21度目』達成。68回県高校総体決勝は（先鋒甲地一本勝ち。次鋒渡辺抑え込んで一本勝ち。中堅壺嘉優勢を奪い。副将徳平一本勝ち。大将龍之介得意の小外刈りで一本を決める。全員危なげなく全勝で締め『22連覇』見事に達成。東北大会、個人戦は100kg級渡辺康成の気迫で前に出て先に仕掛けて仕留める柔道。苦しみながら掴んだ優勝には自分が思っている以上に価値があるのです。

愛媛IHの団体戦は、初戦が決勝戦との気構えで迎え国士舘と激突、真っ向勝負を挑む。周囲はボロ負けする予想に反し0対3であった。先鋒の後藤放った内股を透かして体落としは技有が取り消され、審判への不信感つもの。明らかに勝ちと思う。個人戦での100kg超級鈴木龍之介3年の小外刈り名人芸でした。90kg級後藤達人3年の柔道も天才肌かも。60kg級田中楓之樹2年。66kg級菅野礼登2年。81kg級甲地来希2年共に敗戦から学ぶもの多々あったのではないのでしょうか。それにしても新型コロナに影響され、様々な制約を受けながらも、この状況を真摯に受け入れ自分のやるべき事に実直に取り組んだ。肩書きの内無い選手どもが、新たな歴史を積み重ねるのに相応しい『希望』となりました。よく頑張りました。



2024年（令和6年卒）

渡邊壺嘉主将他11名（甲地、徳平、並木、渡辺、枝松、菅野、佐久間、田中、永井、浅倉、長谷川）。新型コロナの影響により全中が無かった学年でした。令和5年10月『田村高校柔道部創部100周年に集う会』が開催され、選手も主役として参加。壺嘉主将の堂々たる“名挨拶”はこれからの新時代を予感させる内容で大変よかったです。余興の裸踊りを、やっぱりやったか。と思ったが、試合と同じで“自信がないと”出来ません。時にはバカになるのも大事だと思う。圧巻は校歌・応援歌の披露です。200名の大合唱は迫力満点でした。特に応援歌第1～第4は最高ですね。練習の成果が出ていましたよ。大先輩方も昔を思い出し腹の奥底から唄っていました。中には涙を流されていた先輩もいらっしやって感激です。

大会成績は、62 回県高校新人大会は決勝昌平を 5 対 0 完全勝利の『2 2 連覇』。45 回県高校選手権決勝は昌平に 4 対 0 で完勝『21 連覇 22 度目』。69 回県高校総体『23 連覇』個人男子 7 階級制覇！女子 52kg 級優勝。計 8 名の全国出場です。

北海道 IH 出場。団体も初戦は北陸の雄である開志国際を 2 対 1 で下し。2 回戦は優勝候補の一角東海大相模と対戦、大将まで互角の闘いを展開し 1 対 2 で逆転負けでした。個人男女 8 階級で出場。個人戦は 73kg 級渡辺匠『第 5 位入賞』81kg 級甲地来希『第 5 位入賞』。60kg 級田中と 100kg 級壺嘉があと一步のベスト 16 入り。

鹿児島特別国体はオール田村『先鋒田中、次鋒菅野、中堅甲地、副将渡邊、大将片山』1 回戦は熊本に 4 対 0 で大勝、2 回戦は石川に 3 対 0 で勝利し 3 回戦埼玉に敗退も『ベスト 16』埼玉県には勝てると思っていただけに、競り勝って、せめて準決勝まで行きたかったです。本当に悔しい展開でした。この勝負の借りは大学でお返しして下さい。お願いします。

#### 2025 年（令和 7 年卒）

齋藤翔惺主将他 7 名（片山、我妻、幕田、菅野、小野塚、西村、女子主将渡辺珠）。この学年は群馬全中で大活躍した三春中の齋藤、我妻、幕田、菅野の四人。中里中の片山、それに大輔先生の教え子で明野中小野塚、西村が加わり、最高の布陣となった大堀直也軍団。“最強チーム誕生”の予感が漂う。

狙うは 3 月の日本武道館での頂点！8 月大分インターハイにおける『全国制覇』達成です。応援よろしくお願いします。

#### 2026 年（令和 8 年卒）

佐々木泰心まとめ役他 10 名（後藤、金澤、翔太、佐々木脩、菅野、嶋原、日下、進藤、女子吉田、結城）。県新人戦団体は失点なく優勝。個人戦は 7 階級制覇で終了した。結果自分達の立つ位置が明確に分かったのです。ここから自分自身との戦いが始まります。したがって自分とどう向き合って、どこまで己自身を追い込むことが出来るかにかかってきます。今後 1 年生がさらに“大きく逞しく変身”していくことを願います。応援よろしくお願いします。



# 田村高等学校柔道部 25年間の大会成績 (平成11年4月～令和5年11月)

○団体戦成績(全国大会入賞等)

- 1、平成12年12月23回全国高校選手権大会県大会『初優勝～21連覇22度目』
- 2、平成13年6月全国インターハイ県大会『初優勝～23連覇』
- 3、平成13年11月県高校新人大会『初優勝～23連覇』
- 4、平成16年6月東北高校柔道大会『初優勝～通算12度目』
- 5、平成16年10月埼玉国体「第5位入賞」(中堅内藤、副将笠井、大将緑川)
- 6、平成17年8月全国高等学校体育科・コース柔道大会「初優勝」
- 7、平成19年1月全国高校選手権東北大会「初優勝～通算7度目」
- 8、平成20年3月31回全国高校選手権大会「第5位入賞」  
(先鋒増子、次鋒二瓶、中堅織田、副将高橋、大将小泉、補欠廣野)
- 8、平成20年10月大分国体「第4位入賞」福島県勢初  
(先鋒田母神、中堅織田、副将高橋、大将小泉)
- 9、平成22年8月沖縄インターハイ「第5位入賞」  
(先鋒大堀、次鋒吉田潤、中堅下田、副将室井、大将大和田、補郡司)
- 10、平成23年8月秋田インターハイ「第3位入賞」  
(先鋒郡司、次鋒室井、中堅大堀、副将吉田、大将大和田、補岩崎)
- 11、平成23年10月山口国体「第4位入賞」(中堅大堀、副将室井、大将大和田)
- 12、平成31年1月東日本大緑川理事長杯全国高等学校柔道大会「初優勝」  
(先鋒田邊、次鋒橋本、中堅片山、副将佐井川、大将鈴木、補欠大越・有馬)
- 13、平成31年2月9回魁春旗争奪全国高校選抜錬成三春大会「初優勝」  
(先鋒田邊、次鋒片山、五将櫻庭、中堅和田、三将橋本、副将鈴木、大将佐井川)
- 14、令和元年8月新潟杯高校柔道大会「初優勝」  
(片山、佐井川、和田、伊藤、武田、佐藤)
- 15、令和元年12月36回若潮杯争奪武道大会「第3位入賞」  
(先鋒伊藤、次鋒武田、中堅和田、副将佐井川、大将片山、補枝松)
- 16、令和2年8月IH代替大会「THE one大会 田村・山工親睦大会」「優勝」  
(片山、佐井川、和田、枝松、佐々木)
- 17、令和3年8月三重国体代替大会“三重とこわか柔道大会”「第5位入賞」  
(先鋒後藤、次鋒甲地、中堅渡辺康、副将徳平、大将鈴木龍、補並木)
- 18、令和4年8月全国高校体育科コース柔道大会17年ぶり「優勝2度目」  
(先鋒甲地、次鋒徳平、中堅片山、副将齋藤、大将渡邊、補並木)

○個人戦成績（全国大会入賞等）

- 1、平成 16 年 26 回全国高校選手権大会「無差別級第 5 位」笠井真幸(須賀川三中)
- 2、平成 16 年 広島インターハイ「100kg 超級第 5 位」緑川和輝(白河中央中)
- 3、平成 17 年 27 回全国高校選手権大会「無差別級第 3 位」鈴木貴之(小名浜二中)
- 4、平成 18 年 近畿(大阪)インターハイ「90kg 級第 5 位」内藤雄大(須賀川一中)
- 5、平成 19 年 佐賀インターハイ「73kg 級第 3 位」郡司成晃(小野中)
- 6、平成 20 年 埼玉インターハイ「90kg 級第 5 位」高橋昂太(江釣子中)
- 7、平成 22 年 32 回全国高校選手権大会「90kg 級第 5 位」吉田潤樹(須賀川三中)
- 8、平成 22 年 32 回全国高校選手権大会「無差別級第 5 位」小林慶子(須賀川三中)
- 9、平成 22 年 沖縄インターハイ「100kg 超級第 3 位」大和田巧(小名浜一中)
- 10、平成 23 年 全日本 Jr 選手権大会「100kg 超級第 5 位」大和田巧(小名浜一中)
- 11、平成 23 年 全日本 Jr 選手権大会「90kg 級第 7 位」大堀直也(喜多方一中)
- 12、平成 24 年 34 回全国高校選手権大会「66kg 級第 5 位」岩崎康介(四倉中)
- 13、平成 27 年 近畿(奈良)インターハイ「73kg 級第 5 位」相浦佳斗(喜多方三中)
- 14、平成 28 年 島根インターハイ「66kg 級第 5 位」島貫 蓮(喜多方三中)
- 15、平成 29 年 南東北(福島)インターハイ「81kg 級第 3 位」杉山 海(明野中)
- 16、平成 29 年 南東北(福島)インターハイ「90kg 級第 3 位」瀧澤秀斗(若松四中)
- 17、平成 29 年 全日本 Jr 選手権大会「90kg 級第 7 位」瀧澤秀斗(若松四中)
- 18、平成 30 年 40 回全国高校選手権大会「60kg 級第 5 位」斉藤大夢(明野中)
- 19、平成 30 年 近畿(三重)インターハイ「100kg 級第 5 位」鈴木直登(四倉中)
- 20、平成 31 年 全日本柔道選手権大会東北予選会『準優勝』鈴木直登(四倉中)  
※全日本柔道選手権大会出場（高校生の出場は東北史上初）
- 31、令和 3 年 長野インターハイ「100kg 超級第 5 位」武田幹太(五所川原一中)
- 32、令和 5 年 北海道インターハイ「73kg 級第 5 位」渡辺 巧(若松四中)
- 33、令和 5 年 北海道インターハイ「81kg 級第 5 位」甲地来希(上北中)





# 田村高校柔道部

## 己に克つ

